

17つ屋根の下

屋根を考える

住宅の屋根が気になった
屋根にはさまざまな色や形があり、
勾配屋根の住宅を見ているといろんなことを想像する
どんな家族が生活をしているのか、
屋根の下の空間はどうなっているのか
しかし、近年フラットルーフが増加し、
屋根の意味が薄れていると感じた
そこで、屋根の意味を再定義し、新しい勾配屋根の住宅を提案する

屋根は建築にとって極めて重要な部位

屋根は雨、風、日差しから人間を守り、
集合すると都市風景を形成する



屋根を考えた時に影響を受けたもの

『傘』
雨から人を守る
傘の下には領域ができる
『相合い傘』という言葉があるように
一つの傘と一緒に入ることで
親密になったように感じる



屋根を意識する時

雨の日、建物から外に出て、傘をさす瞬間
軒や庇のようなものがないと
どこで傘をさしていいかわからなくなる



イエガタの流行

2008年頃からイエガタのアイコンを
利用した住宅が流行した
イエガタのフォルムはすべて切妻屋根であり
ウチとソトがはっきり分かれていて、軒がない



私の屋根の定義

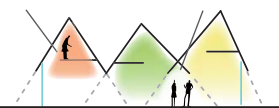
雨露をしのぐもの
領域をつくるもの
設計
屋根(軒)を地面までのばす
屋根だけで領域ができる



一人につき一つの屋根を設け、
雨を地面に流し、領域をつくる

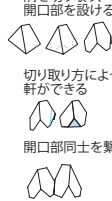


屋根同士を繋げ、空間を繋げる



屋根の繋げ方

隅を切り取り、
開口部を設ける
切り取り方によっては
軒ができる
開口部同士を繋げる

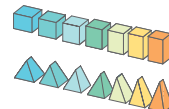


ボリューム

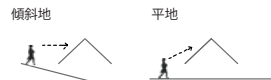
屋根の高さと平面の広さ
どの屋根にも均等な空間が生まれるように
容積を等しくする
高さが高くても平面も広い屋根
高さが低くても平面も狭い屋根
高さが低くても平面が広い屋根
高さが高くても平面が狭い



容積の等しい7つの屋根を繋げていく



傾斜地にある勾配屋根ばかりの住宅地
敷地周辺には明星大学、中央大学、帝京大学の
キャンパスがあり、学生が多く生活している地域



平地より傾斜地の方が屋根が見える面積が大きく、
屋根に視線が行きやすい

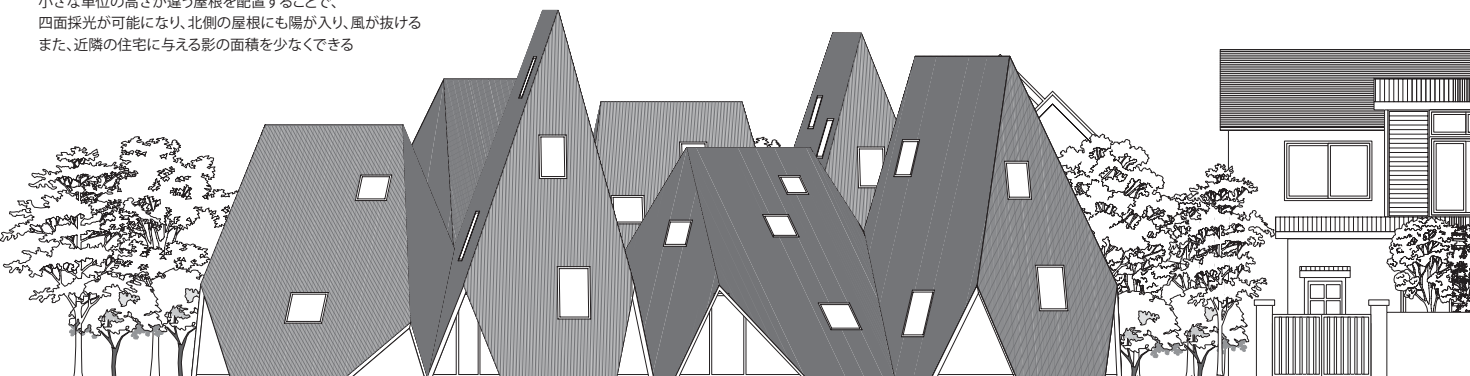


多摩モノレール車内より撮影

同じ屋根ばかりの新興住宅街でもなく
フラットルーフばかりの住宅街でもない
この住宅地に、似ているようで似ていない
馴染んでいないようで馴染んでいる
屋根の住宅を考える。

配置図

小さな単位の高さが違う屋根を配置することで、
四面採光が可能になり、北側の屋根にも陽が入り、風が抜ける
また、近隣の住宅に与える影の面積を少なくできる

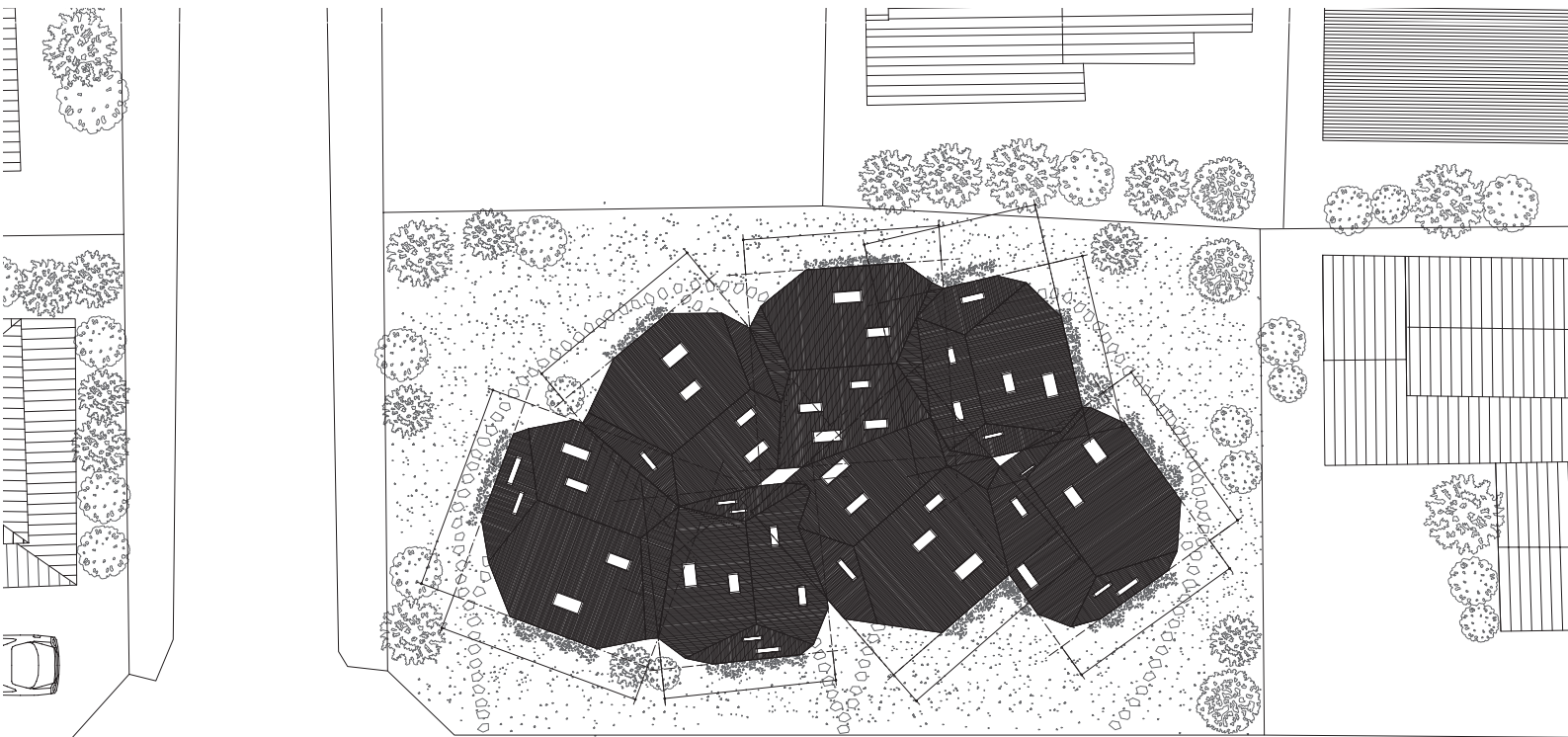


立面ではそれぞれ独立して見える屋根も、上から見ると一つの大きな屋根に見える

南立面図

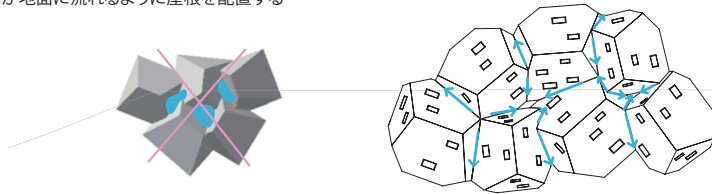


立面ではそれぞれ独立して見える屋根も、上から見ると一つの大きな屋根に見える



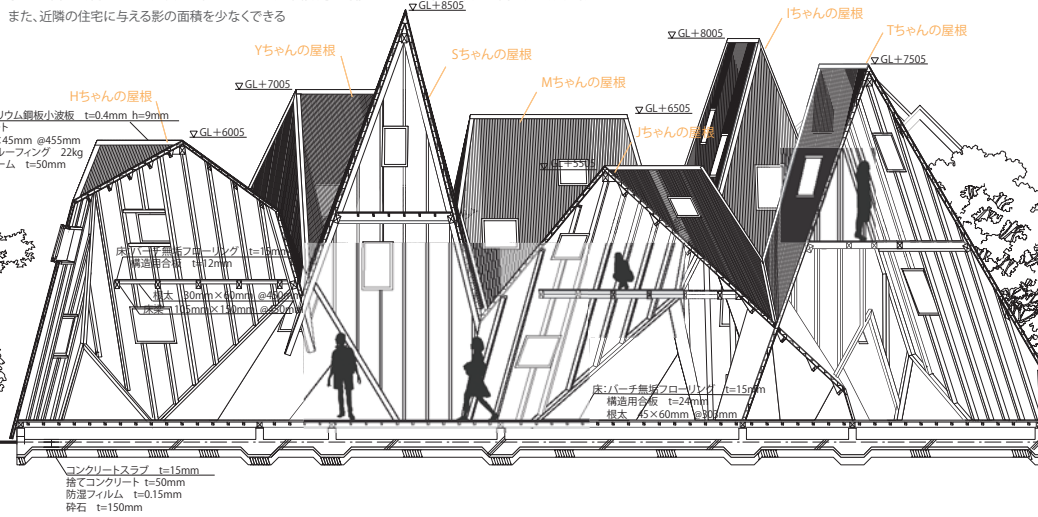
屋根の配置

雨が地面に流れるように屋根を配置する



屋根伏図

小さな単位の、高さが違う屋根を配置することで、四面採光が可能になり、北側の屋根にも陽が入り、風が抜ける
また、近隣の住宅に与える影の面積を少なくできる

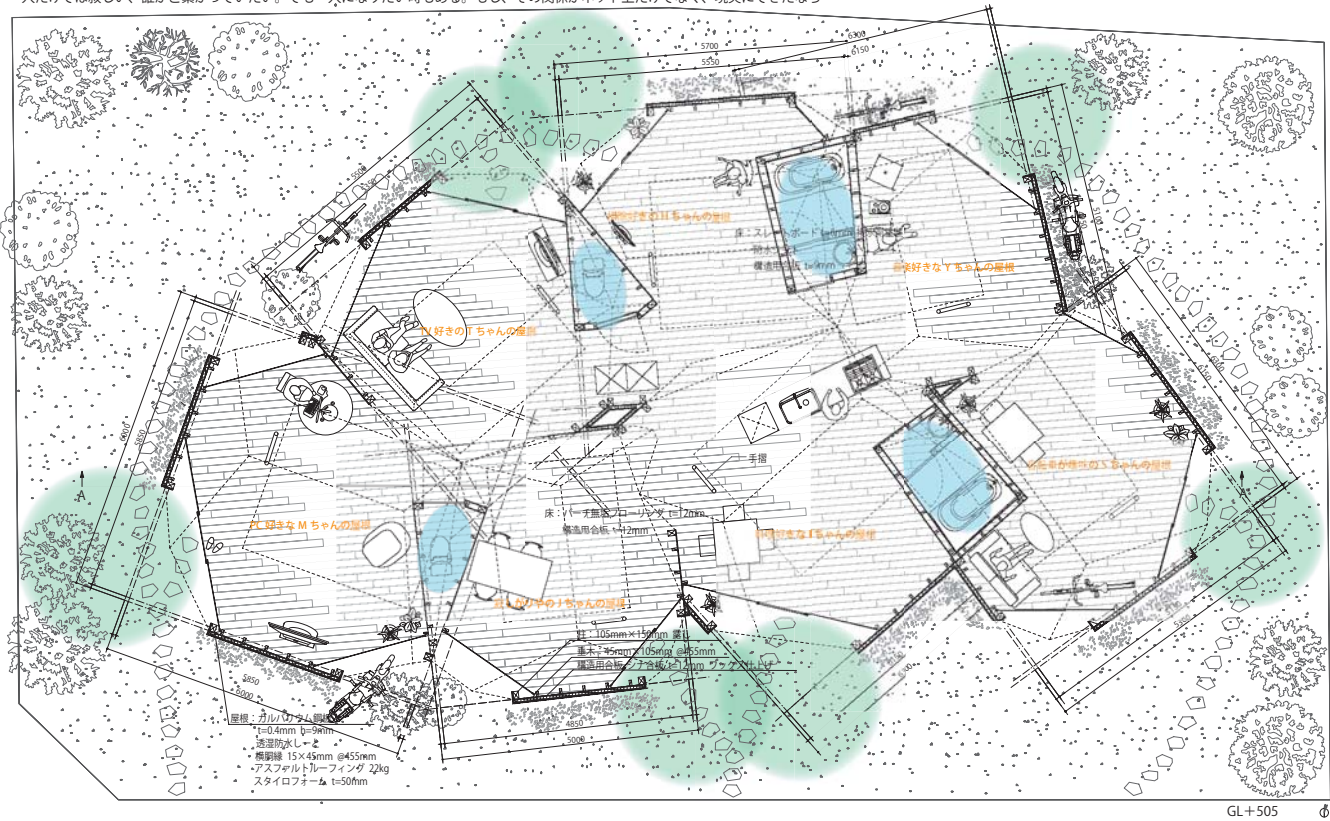


A-A' 断面図



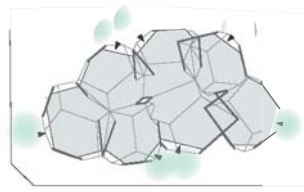
この屋根には家族ではない学生を中心とした個人個人が生活する

近年mixi や twitter 流行しているのは、いつでも誰かと繋がれる安心感を得られるから。けど、繋がりがたくない時は簡単に切ることができる。
一人だけでは寂しい。誰かと繋がっていたい。でも一人になりたい時もある。もし、その関係がネット上だけでなく、現実に来ていたら...

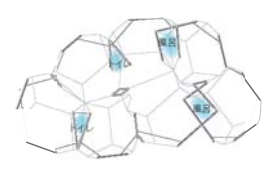


GL+505 ◯

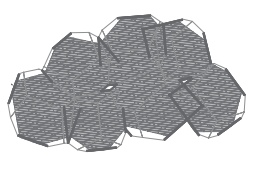
それぞれの入口を別々に設けることで、入口の前には個々の庭のような空間ができる。



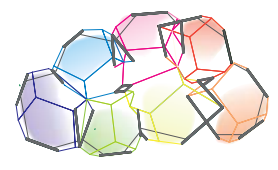
屋根が重なった空間にはトイレや風呂を設ける。



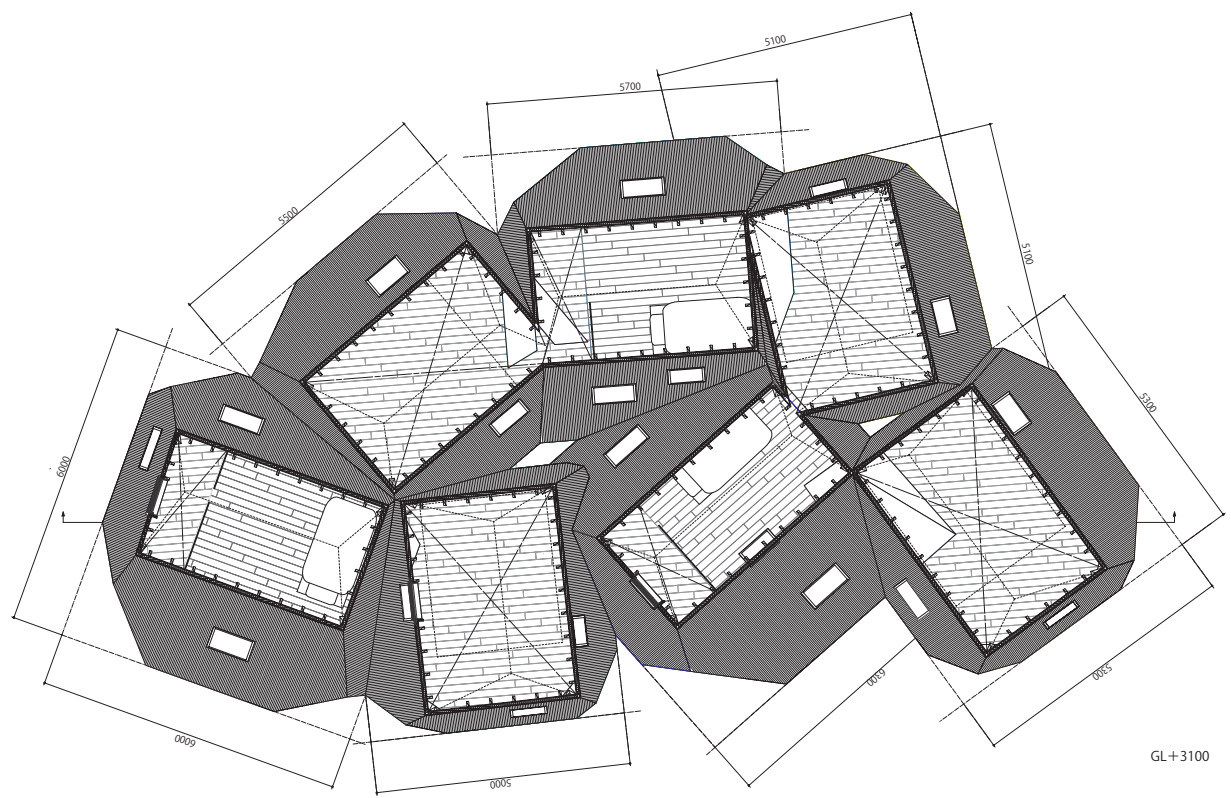
屋根だけで領域を作るために、フローリングの目地の流れ一方向にする



プライベートとパブリックのヒエラルキー



色がついている場所は個人の領域、屋根が重なった白い部分は、誰のものでもない領域となる。



GL+3100